

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 30 日 (木) 午後 7 時 30 分～午後 8 時 50 分
- 2 開催場所 黒部区事務所
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、石嶋市民協働課長、渡部企画総務部長、藤村企画政策課長、水野教育次長、松梨市民局長、高橋教育理事、増田学校教育課長、安達社会教育課長、数多教育総務課長補佐、秋山指導主事、中島学校教育課主任 15 名
地元出席者 56 名
報 道 京都新聞、毎日新聞
- 4 内 容
 - (1) あいさつ
 - (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
 - (3) 質疑応答

5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画 (素案) 説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) 説明 省略第一回目を参照。

質疑応答

○ 開会 (市民局長)

定刻になりましたので、黒部小学校区の学校再配置計画説明会をはじめさせていただきます。本日司会をさせていただきます松梨です。開会に当たりまして、この会場をお世話になりました黒部区長さんから、ご挨拶をお願いします。

(区長)

皆さん、こんばんは。今日は、京丹後市教育委員会主催の学校再配置計画説明会が当会場で開催されるに当たりまして、挨拶を申し上げたいと思います。

正面にお座りになられている中山市長さん、米田教育長さん、副市長さん、他の方々に来ていただきまして、ありがとうございます。

また、会員の皆様におかれましては、一日の仕事を終えてお疲れのところ、多くの方にお越しいただきました。ありがとうございました。

ご案内させていただいておりますように、教育委員会でも学校再配置が計画されておりまして、この地域では初めての説明会であり、直接話を聞ける機会でもあります。市長さん、教育長さんを始め、直接関わっておられる方が出席さ

れておりますので、出席の皆さんからの質問につきましても、行政面、財政面、教育上の問題において、的確なご回答がいただけるだろうと期待をしております。本日が実のある説明会になりますよう、ご協力をお願いしまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

(市民局長) 教育委員会からの説明が終わりましたので、これから皆さんの質問やご意見をお伺いしたいと思います。マイクを渡したいと思いますので、挙手をお願いします。どなたからでも結構です。

(出席者) 一番気になっているのは、通学方法です。3km以上ということですが、黒部小学校の子どもであれば、通学はどのような方法になるのですか。

(育次長) 黒部小学校区につきましては、舟木区、黒部区、国久区、小田区は3km以上ですので、通学支援の対象になります。

(男性) 小規模のデメリットしか書かれていませんが、大規模になった場合のデメリットは検討する中で出たと思いますが、出ていれば教えて下さい。

(教育長) 弥栄町の検討分科会での様子を中心にお知らせしたいと思います。弥栄町検討分科会は、1年半に亘って、8回開かれました。

初回に出た意見

- ・ 統合の話であれば、私は参加出来ません。
- ・ 何を基準に考えたら良いのか。
- ・ 人数が多いと良いと言われるが、色々な人と話していると少なくとも良いところもある。
- ・ えらいところに来てしまった。しかし、子ども達にとって良いところになりたい。
- ・ 1クラスが30人より少ないと困る。
- ・ 少ないと良い面もあるけれども、刺激も少なく、色々な面から考えないと。
- ・ 子どもにとってどんな環境が良いのか、それを考えていきたい。
- ・ 11人のクラスである。人数が少なく、協調性もない。1学年でサッカーチームも出来ないようでは困る。

何をどうするかではなく、座長・副座長の選出後、意見交流ということで出されました。

第2回目に出た意見

- ・ 野間は以前から複式である。人数が少ないからといって、統合は無いだろう。
- ・ 教育委員会は減らすことしか考えていない。市教委は考えを持っていながら、この組織をクッションとして扱おうとしている。
- ・ 統廃合を前提に話している。現状ではだめなのか。現状でも問題は無いよ

うに思える。

- ・ 今統合を考えないと遅い。1クラスが10人程度だと、社会性が身につかないと実感している。
- ・ 学校が無くなると地域が寂れてくるだろう。ただ、子どもは多くの中で育って欲しい。
- ・ 旧町を越えて一緒になることは無いのか。せつかく合併したのに、旧町内だけで考えるのは、如何なものか。
- ・ 児童数の減少から見れば、いつかは統廃合も必要に思える。

第3回目の会議（平成19年10月）

意見は平行線でしたので、座長さんが次のような案を出されました。

- ・ 第1案 吉野、溝谷、黒部、鳥取、野間を現状のままで継続
- ・ 第2案 吉野、溝谷、黒部、鳥取が統合し、野間は継続
- ・ 第3案 吉野、溝谷が統合、黒部、鳥取が統合、野間は継続
- ・ 第4案 吉野、溝谷を統合、黒部、鳥取、野間を統合

平成19年度～25年度までの各クラス数を調べて、メリット・デメリットを考えてくるようにされていました。

弥栄分科会の中間報告（平成20年1月）

- ・ 現在の施設を有効に使い、方向性を示せと言われるなら、1校への統合は考えられない。鳥取小学校に全員は入れないからである。しかし、せつかくなら耐震補強、教室増築をして、1校が望ましい。30年後のことは見越すのは難しいが、1校が理想的である。子どもの数がこんなに急激に減るとは、想像が出来なかった。2校にするより1校にして、2クラスにするほうが、子どものことを考えると、良いのではないか。児童数の推移を見ない内は、意見が色々あったけれども、これを見ると何年か経ったら1校という姿が見えてくる。2校にする必要は無い。

最終報告（平成20年5月）

- ・ 合計8回開催された分科会において、当初は再配置に否定的な意見もあったが、子どもの将来を考え、今後の児童数・生徒数を考慮して検討した結果、17名の委員の総意によって下記のとおりまとめることが出来る。再配置後の学校数について…現在5校ある学校を1校に統合する。

上記の理由…中間報告の理由とほぼ同じ

以上が、話された経過です。

（男性）統合ありきということで、話が進んでいるという気がしなくも無いです。今日ここで結論は出ないわけですが、ここで何もでなければ、OKでしたという話にいくんですか。ここで出た賛成・反対の意見はどこかにいくんです

か。どういう形で決定しますということになるんですか。ここで何も無ければ、ということですか。ただ意見を聞こうということですか。

(教育長) 野間も含めて、5つの学校が1つになるということですね。ですから、5つの学校がOKというふうにならないと、無理に進めるわけにはいかないと思います。今日黒部で、賛成、反対ではなく、京丹後市と教育委員会が一緒に作ったこの案を出来るだけご理解いただいております。この場で、黒部の意向を決定するということではありません。今後耐震の結果もまとめてみまして、半年後の結果が出た時点で今後の方針をお示しし、また説明をさせていただかなければならないと思います。

(出席者) 今日は、第1回目の黒部の人の意見を持って帰るための説明会ということでしょうか。

(市長) 今、教育長が申したとおりなんですけれども、我々は1校が望ましいと思っておりますが、今日はそれを進めさせていただいて、理解をしていただきたいと思っておりますし、同時に我々の気付かなかったこともあるかもしれませんし、ご意見をいただき、それを受け止めさせていただいて、というようなことでございます。今日仮に何も意見が無かったとしても、この場に来ていない方もいらっしゃいますので、この場でどうこうということではありません。

(出席者) 安心しました。耐震とは分けていただくのが、普通ではないかという気がします。今日検査して、明日統合しますから耐震補強はしませんというのなら話は分かりますが、即補強をするというのが基本的な考え方だと思いますので、再配置とは全く離して進めていただくことをお願いしたいです。

(市長) 考え方は非常に理解できます。平成7年から5ヵ年計画で、耐震については進めており、今第三次に入っておりますが、お金がかかりますので、最初は国等の助成率が少なく、耐震が進まない状態でした。制度の充実も国の指導もある中で、やっていくのは当然だと思います。他方として現実的な制約として、財政上の事情があります。再編と同時に進むということからして、出来るだけ整合性をとってやる必要が出てきます。具体的には耐震診断・設計・工事をし終えた途端に合併をしてしまっても必要なくなったという場合があると、意味が無いのでその点での整合性は重ね合わせながら進めなくてはならないと思います。同時に耐震も制度が充実している中で、しっかりとやっていこうということですね。

(出席者) 耐震については、極力早く進めて下さい。

(出席者) 学校は地域の拠点であり、地域の文化の中心であり、卒業して離れた人にとっては故郷の中心です。学校が無くなるというのは非常に寂しいことです。出来ればそのまま存続していただきたいと思いますが、少子化というこ

とで統合ということになれば、50年後、100年後にはまた統合とうことになり
ます。ひょっとすると、弥栄小学校も無くなり、峰山と合併するかも知れない。
学校を存続するという考えは無いんですか。学校を存続するためにはどうした
ら良いかを考えてもらいたい。例えば子どもをもっと増やす施策をする等。教
育委員会としては子どもが減っていくから、子どものためには合併したほうが
良いということなんですけれども、子どもが減るといことは京丹後市の将来
は暗くなる、文化も経済も衰退していく原因です。少子化対策はどうしたら良
いか、それが一番大事ではないかと思うんです。それを考えたうえで、やっぱ
り駄目だった、これでは出来ない、で統廃合だったら分かるんですけれども、
少子化をどうするかという論議がなされないままに、統廃合と言うのは如何な
ものかと思いますが、どうでしょうか。

(市長) おっしゃることは、よく分かります。合併以前からもそうですし、合
併後も色々な課題があり、過疎化が全体として進む中で、これを何とか押し止
めて底を打ってプラスに転じてほしい。総合計画も4年前に立てましたが、な
かなかそこには及びません。様々な分野で、市の活性化、若年人口の増加のた
めに、産業の関係でも努力をするのですが、目に見えた成果はありません。私
は丹後は絶対に将来豊かに、賑やかに、質的にもっとすばらしい町になると思
っていますので、市をあげて努力をする中で、そういう方向になっていくと思
うんですけれども、他方で10年後にそれによって子ども達がどう増えるのか
は見込めないんです。見込めないので、数字として前提に出来ません。少なく
とも見込めるのは6年プラス3年の自然増減の部分で、現在は弥栄町の5校で
370人規模ですけれども、6年後には270人規模になるような状況があります。
そういう数字を見たときに、努力をする部分もありますが、そこを前提に出来
ません。現実的な人口を前提に対応を考えざるを得ません。子ども達にとつて
は、待ったなしの状況だと思いますので、どうすれば良いかについてご検討を
いただいたり、検討をしながらやっているということです。

(出席者) 少子化対策、過疎化の問題というのは、もっと力を入れてやって欲
しいです。学校の統廃合の話をする必要がなかったという位に、して欲しいと
思います。

(市長) 頑張ります。

(出席者) 鳥取小学校への統廃合で、通学方法・通学路は決まっていると思
いますが、資料としてつけないんですか。

(教育長) 通学方法は、先ほど言いましたように、バス通学がほとんどになり
ます。井辺地区は2.1kmで3kmに足りませんが、この案が出来ましたら、そ
の地区で集合場所はどこにするのかということ、スクールバスは何台にするか

という素案は持っていますが、決まりましたら皆さんにお示しします。それぞれの地区の人に意見を聞かなくてはならないと思います。

(出席者) 弥栄全体として、徒歩で通学される人もいますし、道路の危険な箇所もありますので、保護者にここを通りますという話もしないと、検討会にならないのではないかと思います。

(市長) 計画を出させていただく前には、検討させていただいて、ご意見をいただくことが必要ですので、案が出来た段階でさせていただきたいと思います。

(出席者) 前に座っておられる人の意見を聞いておりましたら、どうも分校では駄目だとか、小規模校の生徒では駄目だという言葉が前面に出ているような感じがします。分校の生徒は将来、大した人間にならないとか、小規模校の生徒さんが駄目な人間にしかならないということは決してないと思いますし、統合ありきみたいな感じがします。本当に教育ということを考えられるのであれば、河梨峠のギャンブルの券売り場を制止するという話は、当然出てくる話だと思いますが。最近の新聞を見ておりましたが、京丹後市は二転三転するような話ばかり出ています。学校の再配置の問題もそうですし、バイオガスのこともそうですし。もう少しきちっとした議論がされないまま、当局の思い上がりで先に走らせようとする感じがして仕方がありません。過疎と学校の再配置についてどのように分析されているのか、先ほどの説明では今ひとつはっきりしなかったもので、答弁をお願いします。

(市長) 過疎と学校の再配置ということでもありますけれども、学校は子ども達がそこで過ごし、勉強し、一日の大半を過ごして成長する、子ども達の施設であると思います。まずは子ども達にとって、どういう学校が用意されているかを皆で真剣に考えなければならないと思っています。通学の安全等は大前提です。その上で、地域にとっても地域活動の拠点性であり、象徴であり、とても大切なものです。統合することになれば、跡地利用について考えなければならないですし、そういうことも考え合わせながら進めていかななくてはならないと思っています。そして地域の活性化は、学校の問題とは切り離してでも、絶えず検討と努力を重ねていかなければならないと思います。学校は、子ども達のための施設だということを中心に考えないといけないと思っています。

(出席者) 私は、過疎は政策によって起きるものだと考えます。合併以来 5,000～6,000 人全体として減った中で、現実に京丹後市でも人口が増えていくのは、大宮町の一部、峰山町の一部です。京丹後市の政策によるところが大きいのではないかと思います。それだけとは言いませんが。黒部の過疎を政策によって起こさないようにしていただきたいです。

(市長) 黒部を始めとして、弥栄町、京丹後市の地域がそれぞれの特色を生か

しながら活性化するように、努力をしていかなければならないと考えています。

(出席者) 黒部校区を含めて、旧弥栄町で森岡町長さんのときに、学校再編の問題について、子どもが減少するので学校を統合したほうが良いという行政の指導でそういう話が持ち上がりました。ところが各集落でこの問題を検討したときに、学校が無くなったら地域が寂れるということで、どうしても学校は残して欲しいということで、現在の学校で建替え工事をして現在に至っています。当時の町長さんは、子どもの数を増やすにはどうしたら良いかということで、地域の子どもの少ない地域には町営住宅を建てられました。府営住宅も建てられました。そういう計画を持って、学校の生徒数を増やされました。そういう前向きな対策がないと、児童数が減るから学校を少なくしていかななくてはならないということであると、地域はますます寂れます。現に私の住む集落は、あと何年かすると小学校の生徒は1人になります。本当に限界集落に近い状態が目の前です。そういうことも当局は認識をしていただいて、過疎の対策について、本当に真剣に、学校問題も含めて考えていっていただきたいと思います。終わります。

(市長) とにかく地域の活性化のために、人が住んでいただける環境を作ることには非常に大切で、様々な形でやっていかなければと思います。これは市政全体の大きなテーマでもあります。時代によって状況も違ってきます。住んでいただくためには、住宅だけでなく、仕事も必要です。仕事がある内は、住居があれば人が住める状態にありましたが、今は仕事をどう確保していくかがないと住んでいただける条件が整いません。色々な政策をしっかりとしないといけないということで、工業団地を始め多方面で取組みが進行中です。出来るだけ近い将来、人口も安定していけるような努力をしていきます。

(市民局長) これで今日の説明会を終了させていただきたいと思います。閉会に当たりまして、米田副市長から閉会のご挨拶をさせていただきます。